

### 3 防災訓練の充実

#### (1) 防災訓練の目的

##### ① 防災教育の指導内容の実践的な理解を深める

防災訓練は、児童生徒が災害発生時に、安全に避難することができる態度や能力を育成することをねらいとし、防災教育の指導内容について、体験を通して実践的に理解を深めるために実施するものである。

##### ② 児童生徒の危険予測・危険回避能力の育成

防災にかかる指導は、その場の状況に応じて的確な危険予測・危険回避の行動がとれるような態度を児童生徒に身に付けさせ、日常生活で実践させることが重要である。

##### ③ 教職員の防災対応力の向上

教職員は、防災訓練を通して、的確に状況を把握し、沈着冷静かつ機敏な態度で、その場の状況に応じた臨機応変な行動をとれる防災対応力を向上させることが必要である。

##### ④ 地域の防災力との連携を深める

地域の防災訓練に学校として参加したり、地域と合同の防災訓練を実施したりするなど、地域との連携・協力を通して、教職員が避難所運営支援に対する協力の仕方など、災害発生時の対応のあり方を身に付ける。

#### (2) 防災訓練実施上の留意点

##### ① 災害発生時の基本的な対処行動の習得

###### ア 身体の保護などの緊急時の安全確保

- ・教室、体育館、運動場などの行動

###### イ 二次災害の防止

- ・火気の始末
- ・周囲の安全の確保

###### ウ 協力的行動

- ・避難時のきまり（例：おさない・かけない・しゃべらない・もどらない）

※ 地域によっては、「おはしも」の場合がある。（は：はしない）

- ・避難時の助け合い、負傷者の搬送と応急手当

##### ② 計画立案時の留意事項

ア 時期や回数は、学校や地域の実情に応じて、他の安全指導との関連などを考慮して設定する。特に、学校の立地条件を考慮に入れることは、避難訓練を実施する上で重要である。

イ 事前にその意義を児童生徒に十分理解させ、「自らの身は自ら守り、安全に行動できる」ことを基本にして指導する。

ウ 障害のある児童生徒については、一人ひとりの障害の状況に応じた配慮事項を明確にして指導する。

エ 教職員は、明確な指示をするとともに、「落ちてこない」「倒れてこない」場所を探し、頭部や体を保護させるなど、危険を予測し回避させる訓練を重点的に行う必要がある。

##### ③ 多様な状況を想定した避難訓練の実施

###### ア 多様な時間帯での訓練

- ・授業中
- ・休憩中（給食中・掃除中・放課後など）

※ 防災に関する「避難訓練」年間実施計画 → 【作成例：様式1（P31参照）】

【作成様式：様式1（P97活用）】

- イ 緊急地震速報を取り入れた訓練
- ウ 様々な被災状況を想定した訓練
  - ・火災などの発生箇所を変えた避難訓練（家庭科室や理科室など）
  - ・放送設備等電源が使用できない状況を想定した訓練
- エ 登下校時を想定した訓練
- オ 児童生徒の保護者への引き渡し訓練
- カ 地域や関係機関と連携した訓練
- キ 第二次避難場所へ避難する訓練
- ク 運動場に避難することが困難な状況を想定した訓練
- ケ 校長や養護教諭等が不在時の状況を想定した訓練

#### ④ 避難訓練実施時の留意事項

- ア 地域の消防署等との連携を図り、屋内消火栓、救助袋、消火器、担架など防災用具を積極的に活用して緊迫感、臨場感をもたせる。
- イ 教職員一人ひとりが役割分担や協力体制について理解を深め、的確な行動ができるようになる。
- ウ 実施後は、教職員の指示の方法、児童生徒の人数把握、安全確認、避難に必要な時間、避難場所・経路の選定、児童生徒の避難行動時の状況等について、専門家の協力を得て適切に評価を行い、次回の訓練に反省点や改善点を反映させる。
- エ 校区内での防災訓練の共同開催等、連携した取組についても検討する。
- オ 交通機関や通信網が遮断されるなど、情報機能の混乱も予想されるので、保護者、関係機関、教職員等の情報通信手段の多様化、分散化を図るとともに、情報機器の操作方法を習得する。
- カ 災害発生時に、迅速かつ確実に情報収集、伝達ができるよう平常時から電子メールやインターネット等を活用し、避難訓練においても災害発生時を想定した実践的な活用を図る。

### （3）県および市町等の防災訓練への積極的な参加

#### ① 家庭・地域・関係機関・市町防災担当課等との連携

児童生徒の登下校時における避難訓練の効果を高めるため、家庭・地域・関係機関・市町防災担当課等と連携した防災訓練にも参加する。

#### ② 地域ぐるみの防災訓練への参加

震災時には、地域社会の協力なしでは学校は成立しない。地域ぐるみの防災訓練に積極的に参加することにより、避難所運営に対する協力の在り方等災害発生時の対応について訓練する。

#### ③ 消防署などの防災施設の見学や体験

消防署などの防災施設の見学や体験をとおして、広い意味での防災教育を充実する。

#### (4) 緊急地震速報を利用した避難訓練

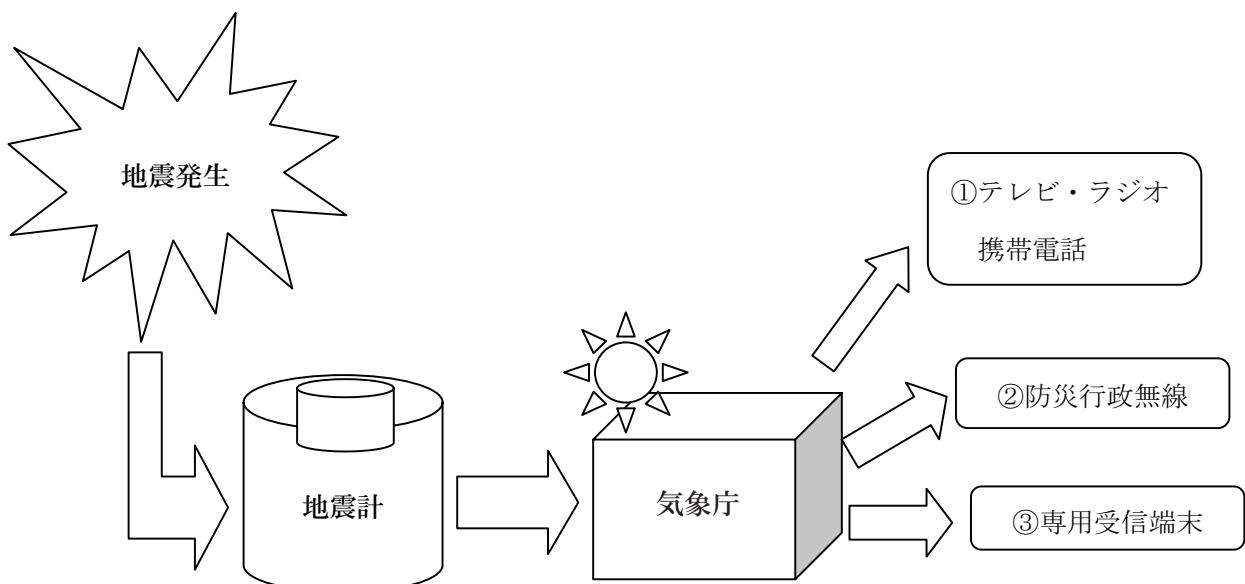
##### ① 緊急地震速報とは

緊急地震速報は地震の発生直後に、震源に近い地震計でとらえた観測データを解析して震源や地震の規模（マグニチュード）を直ちに推定し、これに基づいて各地での主要動の到達時刻や震度を予測し、可能な限り素早く知らせる地震動の予報・警報である。

【気象庁HP参照】[http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/EEW/kaisetsu/Whats\\_EEW.html](http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/EEW/kaisetsu/Whats_EEW.html)

これにより、地震の強い揺れが到達するよりも早く、これから大きな揺れが来ることを知ることができる。

【緊急地震速報のイメージ図】



- i テレビ・ラジオ・携帯電話に、震度5弱以上を予測した場合に、緊急地震速報（警報）を発表
- ii 防災行政無線により、準備の整った放送局や市町（全国瞬時警報システム J-ALEERT）から放送を開始
- iii 専用受信端末等では、気象庁が発表する警報や予報のほか、独自に個別地点の震度を予測し、報知

##### ② 緊急地震速報の限界

緊急地震速報は、地震の発生を予測するのではなく、あくまでも地震が発生してから、揺れが来ることを知らせる情報であり、技術的な限界がある。

したがって、緊急地震速報の技術的限界を理解し、緊急地震速報が放送された後に地震が発生した場合や突然地震が発生した場合のどちらの場合も、身の安全を確保することができるようにしておくことが大切である。

【緊急地震速報の技術的限界】

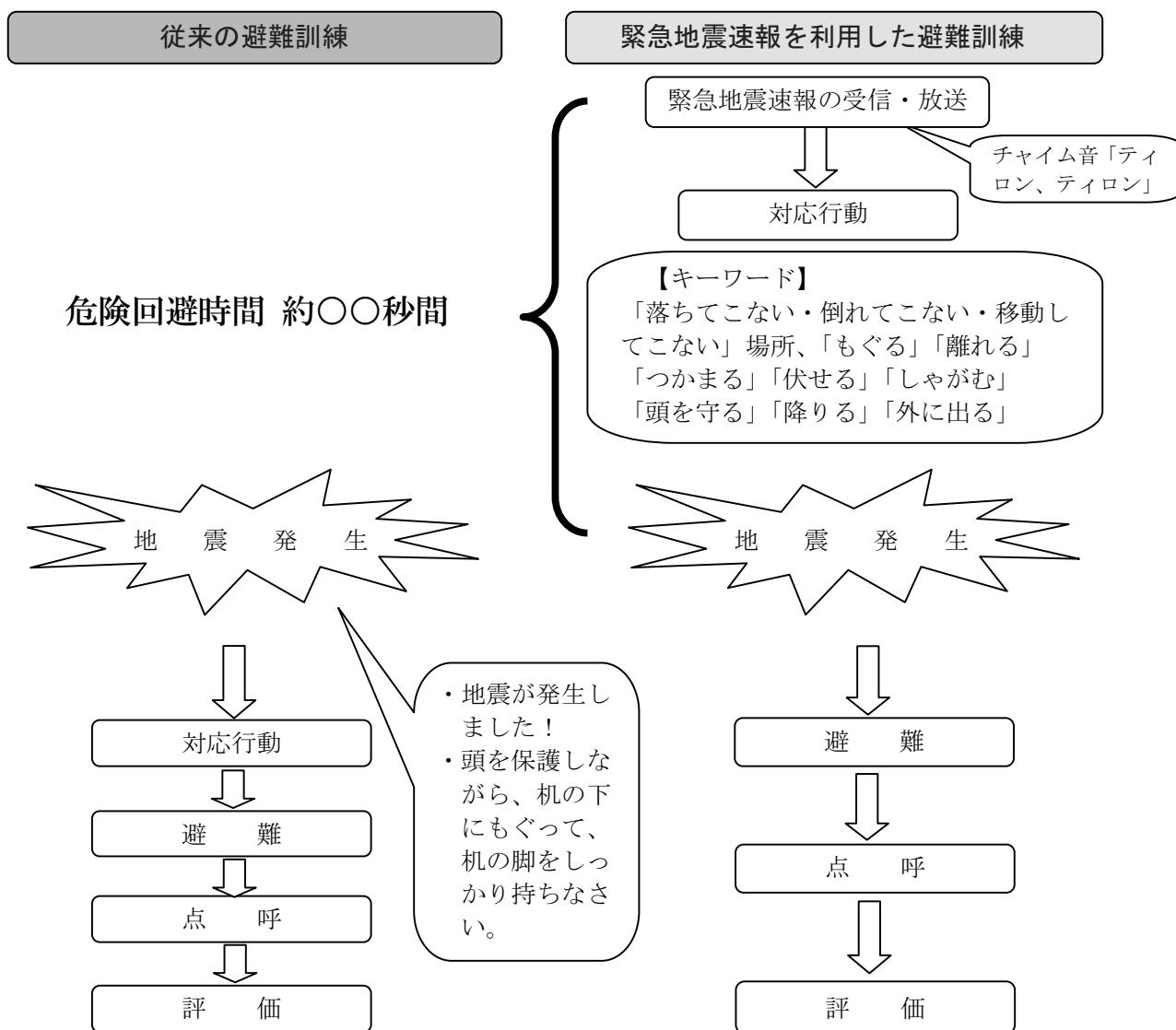
- i 緊急地震速報が発せられてから、揺れが到達するまでの時間は長くて数十秒である
- ii 地震が発生した場所の近くでは、地震の揺れの方がはやく到達する場合がある
- iii 震度や震源の位置等の推定の精度が、十分ではない場合がある
- iv 雷や事故などによるノイズの影響により誤報を発信する恐れがある

③ 緊急地震速報システムを活かすために必要な取組

緊急地震速報を減災に結びつけるためには、備品等の転倒落下防止対策、防災教育、防災訓練等を確実に実施しておくことが必要である。

なお、彦根地方気象台では、学校における緊急地震速報を取り入れた防災訓練の実施の協力や支援を積極的に行なわれている。

【緊急地震速報を利用した避難訓練（従来の避難訓練との違い）】



Q & A

Q	A
◆緊急地震速報を利用した避難訓練の計画例等がありますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>彦根地方気象台のホームページに、緊急地震速報を利用した避難訓練の学習方法の紹介がされています。 【彦根気象台 HP: <a href="http://www.jma-net.go.jp/hikone/">http://www.jma-net.go.jp/hikone/</a>】</li> </ul>
◆緊急地震速報の専用端末機器がなくても訓練は必要ですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震が来る前の数秒間に、何ができるのかを子どもの時から身に付けておくことが、将来的に大きな意味があります。</li> <li>携帯電話やテレビ、旅行先など様々な場面でチャイム音を聞いた時に、反応できるようチャイム音の意味を理解することは、たいへん重要で意義のあることです。</li> </ul>

## 【参考資料1】緊急地震速報を利用した避難訓練計画〔例〕

### 緊急地震速報を利用した避難訓練(休憩中)【小学校展開例】

#### 特別活動 学校行事 (健康安全・体育的行事)

- 1 活動名 地震(休憩中)を想定した避難訓練
- 2 ねらい 地震発生時の安全な行動を知らせ、「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に安全に避難できる態度や能力を養い、沈着、冷静にその場に応じた行動がとれるようにする。
- 3 指導の重点 (1)休憩中の緊急地震速報に対する避難の方法や避難経路、避難場所を理解させる。  
(2)近くにいる教職員の指示をしっかりと聞き、きまりを守って安全に避難できるようにする。
- 4 想定 午前10時25分頃、震度6程度の地震発生  
余震・停電により、非常用放送設備以外の校内放送使用不可
- 5 日時 ○月○日(○)午前10時25分
- 6 避難場所 運動場(砂場の前)
- 7 展開

(1)事前指導

学習内容・活動		教職員の支援	資料
1	避難訓練の予告	<input type="checkbox"/> 過去の避難訓練を振り返らせる <input type="checkbox"/> 避難経路を確認	・避難経路
2	緊急地震速報のチャイム音を事前に聞き、その際の対処の仕方について話し合わせる	<input type="checkbox"/> 避難場所 <input type="checkbox"/> 対処の仕方	
3	地震発生時の基本的行動様式について説明し、確認する	<input type="checkbox"/> 「おさない、かけない、しゃべらない、もどらない」を徹底する	・地震発生時の基本行動

(2)訓練

本部	教師	児童	準備	時間
1 緊急地震速報を放送により流す	<input type="checkbox"/> 活動を中止し、落ちてこない、倒れてこない場所に移動させる	<input type="checkbox"/> 活動を中止し、落ちてこない、倒れてこない場所に移動する	防災アンプ チャイム音	10:25
2 地震発生を通報する	<input type="checkbox"/> 静かに放送を聞かせる	<input type="checkbox"/> 通報をよく聞く		10:26
	「避難訓練、避難訓練。」静かに放送を聞きなさい。ただ今、震度6の地震が発生しました。廊下にいる児童は近くの教室に入り、机の下へもぐりなさい。体育館にいる児童は、「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に移動しなさい。グラウンドにいる児童は、グラウンドの中央部に移動しなさい。先生が行くまで、落ち着いて行動し、指示に従いなさい。」			防災アンプ
	<input type="checkbox"/> 担当区域を把握する	<input type="checkbox"/> 最寄りの待機場所に集合する <input type="checkbox"/> 単独の行動はしない	出席簿	10:27
3 避難を指示する	<input type="checkbox"/> 避難指示に従い、避難の誘導をする	<input type="checkbox"/> 教師の指示に従い避難する	・笛 ・学級旗 ・ストップウォッチ ・メガホンマイク	
※時間計時開始	<input type="checkbox"/> 学級担任以外の教師は、各階の校内巡視、残留児童の確認をする	<input type="checkbox"/> 外に出たら、急ぎ足で行動する <input type="checkbox"/> 2列に並んで整列し、所持品は持たない		
	<input type="checkbox"/> 障害のある児童には、学級担任がつく	<input type="checkbox"/> 教室、廊下等の戸を開ける		
4 避難状況の報告	<input type="checkbox"/> 素早く人員を確保し、本部へ異常の有無を報告する	<input type="checkbox"/> 静かに整列し、教師の指示を待つ		
	学級担任⇒学年主任⇒教頭⇒校長 「○年○組、在学○名、欠席○名」 「現在、出席者○名、異常なし」			10:31
	避難行動終了後、司会:○○ ○お話(校長、安全主任) ○解散(上履きは昇降口、非常口等で、ぞうきんできれいにふいて入る)			10:45

(3)事後指導

学習内容・活動		教職員の支援	資料
1 避難訓練の反省 ・緊急地震速報のチャイム音を聞いた際の自分の行動を自己評価する		<input type="checkbox"/> 事前指導の基本的行動様式で確認させ、各自の行動は適切であったか話し合わせる	避難訓練反省プリント

8 評価

- (1)緊急地震速報のチャイム音に反応し、児童一人ひとりが真剣な態度で適切な行動がとれたか
- (2)基本的な行動の仕方を理解でき、統一した行動がとれたか
- (3)本部からの指示内容は、正確、迅速に伝わったか
- (4)待機場所や避難経路は、適切であったか
- (5)「休憩中・放課後等」の担当区域分担と避難の誘導は、適切であったか
- (6)避難集合場所での整列、人員確認、報告が、正確にできたか

## (5) 児童等の保護者への引き渡し訓練

学校は、保護者に学校防災に関する計画のうち必要な事項を周知しておくとともに、保護者との連絡方法を決めておくことが大切である。

なお、この訓練については、原則として小学生以下とし、中学生・高校生は必要に応じて実施するものとする。

[取組のねらい]		
時間	教職員の対応および訓練の流れ	指導のポイント
	<pre> graph TD     EB[緊急放送] --&gt; DS[被害状況把握 校区の状況把握]     DS --&gt; JD[下校等の判断 ・帰宅か保護か ・集団下校か引き渡しか]     JD --&gt; HS[引き渡す]     HS --&gt; CP[保護者への連絡]     CP --&gt; IS[引き渡しの実施 (下記参照)]     DS -.-&gt; DS_text["「訓練、訓練。緊急地震速報が発令されました。大きな地震が予想されます。全校児童のみなさん、机の下にもぐり、次の放送を待ちましょう。」"]     DS -.-&gt; DS_sub["・施設の被害状況調査 ・安全確認、危険箇所の立入禁止措置 ・通学路とその周辺の被害状況把握 ・校区内の家屋の損壊、交通機関等の状況把握"]     DS -.-&gt; DS_sub2["・あらかじめ定めた方法で時間、場所を知らせる ・保護者不在の児童等への配慮 ・伝言ダイヤル「171」(イナイ)の利用"]     DS -.-&gt; DS_sub3["・保護者持参の引き渡しカードにより確認し、引き渡す"]   </pre>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「緊急地震速報」の発令を受けて緊急放送する。</li> <li>家庭で引き取り者の優先順位を決めておき、学校も把握しておく。</li> <li>災害発生時の訓練なので、カードに記入の上、できるだけ徒歩で来てもらうように伝えておく。</li> <li>カードに保護者と教職員の双方が署名する。</li> <li>保護者への連絡がとれない場合、児童等を引き続き保護する。児童等の心のケアを心がける。</li> </ul>
【引き渡し方法〔例〕】		
<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 児童等は、運動場に学年や学級、分団ごとに集合する。保護者は指定の場所で待機する</li> <li>(2) ハンドマイク等の指示で引き渡しを開始           <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級担任（分団担当）に名前を告げて、引き渡しカード又は引き渡し一覧表で確認を受ける</li> <li>・兄弟姉妹がいる場合は、低学年の児童等から引き取る</li> <li>・負傷した児童等は、養護教諭（本部）に直接確認して引き渡し、学級担任に報告して下校する</li> <li>・児童等が不明な場合は、本部にて指示を受ける</li> <li>・保護者用の名札を確認の上、引き渡す</li> </ul> </li> </ol>		
その他	<p>【参考資料2】保護者への案内文書〔例〕</p> <p>【参考資料3】引き渡しカード 〔例〕 ※2セット以上を、別々の保管場所に置いておくこと。</p> <p>【参考資料4】引き渡し訓練要項 〔例〕</p>	

## 【参考資料2】保護者への案内文書〔例〕

平成 年 月 日

保 護 者 様

○○市立○○小学校

校長 ○ ○ ○ ○

### 「児童引き渡し訓練」の協力依頼について(お願い)

○○の候 皆様にはますますご健勝のこととお喜び申しあげます。

平素は、本校教育に格別のご理解ご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、ご存知のように、平成23年(2011年)3月11日には東日本大震災が東北地方を襲い、多くの方が犠牲になり、いまだに行方不明の方が多数おられ心が痛みます。

今回の被害状況を鑑み、本校でも、大地震等の天災が発生し帰宅が危ぶまれる場合や、不審者の出現により児童だけの下校が危険な場合など、登校後に発生した不測の事態を想定し、児童が保護者と共に確実に下校し被害を最小限にとどめることを目的とした訓練を計画いたしました。

つきましては、下記のように、例年実施しております『校内避難訓練』に合わせて、児童の保護者への『引き渡し訓練』を実施いたします。ご多用とは存じますが、ご理解ご協力をよろしくお願ひいたします。

なお、当日引き渡し訓練に参加いただける保護者の方は、下記の参加票を 月 日( )までに担任まで提出してください。

#### 記

1 日時 平成 年 月 日( )

- ・校内避難訓練 13:50～14:20
- ・引き渡し訓練 14:40～15:00

2 場所 ○○小学校運動場(雨天の場合は各分団教室)

3 方法 ① 本番を想定し『メール配信訓練』も行います。

- ・午前10時過ぎに「引き渡し訓練を行います」という内容のメールを配信します
- ② 混乱を避けるために、学校へは保護者用の名札をつけ、徒歩でお越しください。
- ③ 『引き渡し訓練』は14時40分から行いますので、来られた方から運動場の各地区の後ろに並んでください。兄弟姉妹がおられる場合は、下学年のお子様から引き渡しを受けてください。児童引き渡しの際には、保護者等の確認をさせていただきます。
- ④ 当日、保護者の方が来られない場合は、15時から教職員引率で集団下校します。
- ⑤ 雨天の場合は、裏面の各分団教室で児童引き渡しを行います。
- ⑥ 児童一人につき「参加票1枚」を必ず担任に提出してください。
- ⑦ 学童保育の児童は、学童保育の責任者の方へ引き渡します。学童保育の責任者の方のチェックを受けて引き取ってください。

切 取 線

### 「児童引き渡し訓練」参加票

引き渡し訓練に  参加します  参加しません

年 組 児童名( )

引き渡し訓練参加保護者名( )

地区名および登校班(例:○○一○○班→ )

### 【参考資料3】引き渡しカード【例】

※2セット以上を、別々の保管場所に置いておくこと。

学年	組	氏名 男・女		生年月日	年 月 日 生
				血液型	型
住 所	〒			地区名	
保 護 者 名		児童等 との関係		電話	
				携帯	
兄 弟 姉 妹 ある・なし	年 組 氏名			年 組 氏名	
緊急時の連絡先	電話 ( )				
引き渡し場所	引 き 取 り 者	続柄	引 き 渡 し 日 時		確認欄
学 校			月	日	時 分
二次避難場所			月	日	時 分
			月	日	時 分
引き渡し確認 教職員名		特 記 事 項			

#### 【対応例】

##### ① 保護者等との連絡

- ア 児童等の安全確認後、あらかじめ定めた方法で速やかに保護者と連絡をとる。
- イ 教育委員会に引き渡しの実施について連絡する。
- ウ 二次避難を行った場合は、保護者および教育委員会に避難先を連絡する。

##### ② 引き渡し

- ア 原則として直接保護者に引き渡す。
- イ 引き渡す場合は、引き渡しカード等に所定事項を記入および確認をした上で、保護者および教職員が署名を行う。
- ウ 引き渡しができない場合は、原則として当該児童等を学校または安全な場所で保護する。

##### ③ 留意事項

- ア 保護者に引き取りを依頼する場合は、保護者が迎えに来るまで、児童等を学校で保護することを伝える。保護者を急がせたりすることがないように留意する。
- イ 学校で保護している児童等に、不安を与えないように配慮する。

## 【参考資料4】引き渡し訓練要項〔例〕

### 児童等の保護者への引き渡し訓練要項〔例〕

#### 1 ねらい

- (1) 学校管理下で大規模な地震が発生した場合や、地震の警戒宣言が発表された場合の、避難経路の確認と避難方法および帰宅方法を習得する
- (2) 自他の生命の尊重、安全確保の重要性について意識を高める
- (3) 指導者の危機管理意識の高揚を図り、他の教職員と連携を図った任務遂行能力を身につける

#### 2 日 時

平成 年 月 日 ( ) 14:00 ~ 15:30 (雨天決行)

#### 3 対 象

全校児童等および全教職員、保護者、スクールガード等

#### 4 実施内容

- (1) 大地震発生時の安全確保の方法の確認
- (2) 避難経路、避難場所の確認
- (3) 教職員の避難誘導の方法や負傷者の対応の仕方の確認
- (4) 児童等の保護者への引き渡しの方法の確認

#### 5 想 定

- (1) 授業時間中にM7規模の地震が発生する（地震にともない校舎で火災が発生する）
- (2) 負傷者が数名出る
- (3) 保護者の迎えが必要であると判断される
- (4) 保護者が迎えにくることができない児童等は教職員の引率で集団下校が必要となる

#### 6 引き渡し訓練までの予定

##### 【保護者への連絡】

- (1) 引き渡し訓練実施の依頼文発送
- (2) 参加票回収→教頭まで
- (3) 災害発生時の対応についての研修の実施または文書での情報提供
- (4) 震度5以上等、子どもたちを安全に下校させることができない場合は学校で待機させること  
また、通信手段がなくなった場合は、連絡できないこともあること等を日頃から連絡してお  
く
- (5) 実施当日のメール配信（メール配信できない家庭は電話連絡）

##### 【スクールガード等への連絡】

- (1) 引き渡し訓練への協力依頼とタウンメール等への加入依頼
- (2) 災害発生時の対応についての研修の実施または文書での情報提供
- (3) 実施当日のメール配信（メール配信できない方には電話連絡）

## 【子どもへの指導】

### (1) 避難訓練の事前学習

- ・避難訓練の目的・意義
- ・避難経路、避難場所、避難方法の確認
- ・避難時の留意事項→当日の朝に再確認

- |  |                  |                         |   |
|--|------------------|-------------------------|---|
| 1 摆れがある間は、机の下へもぐって、頭部を守る<br>机の脚を持つ・動かない・落ち着く | 2 落下物や窓ガラスに気をつける | 3 静かに放送を聞く→避難場所と避難経路の確認 | 4 例) 「 <b>お</b> さない・ <b>か</b> けない・ <b>し</b> やべらない・ <b>も</b> どらない（おかしも）」を徹底する。 |
|--|------------------|-------------------------|---|

### (2) 災害発生時の行動理解

- ・大地震発生時の安全確保の方法
- ・災害発生時の状況の学習
- ・災害発生時における心得の学習やワークショップを通しての理解
- ・今回の訓練と違う状況で地震が起こったとき（休み時間だったら、下校途中だったら、休日に一人で外出しているときだったら、エレベーターの中だったら等）の留意事項 等

## 【教職員】

### (1) 職員会議での全教職員の共通理解

- ・万が一の災害に備え、考えられるあらゆる状況を想定し対応を検討
- ・校長、担任、養護教諭等が不在時等の特別な場合の対応の検討
- ・特別な配慮が必要な子どもの対応
- ・外国籍で通訳が必要な子どもの対応
- ・授業中、休み時間、登校時等の場面ごとの役割分担の確認

### (2) 子どもへの指導

### (3) 子どもを安全に避難させるための学校内の振り返り

- ・避難経路の再確認
- ・登校班名簿や地区名の書いたプラカードの準備
- ・非常階段や防火シャッター、またその付近の安全確認
- ・ストーブやコンロ等、またその付近の安全確認
- ・テレビ、ロッカー、蛍光灯等の落下や転倒の危険性のあるものの安全確認 等

### (4) 引き渡し訓練に参加する保護者の把握

### (5) 保護者も含めて、帰宅するよりも学校にとどまった方がよい場合を想定した訓練

- ・待機する子どもたちの保護の方法について検討
- ・教職員が保護者とともに避難所開設準備を想定した訓練

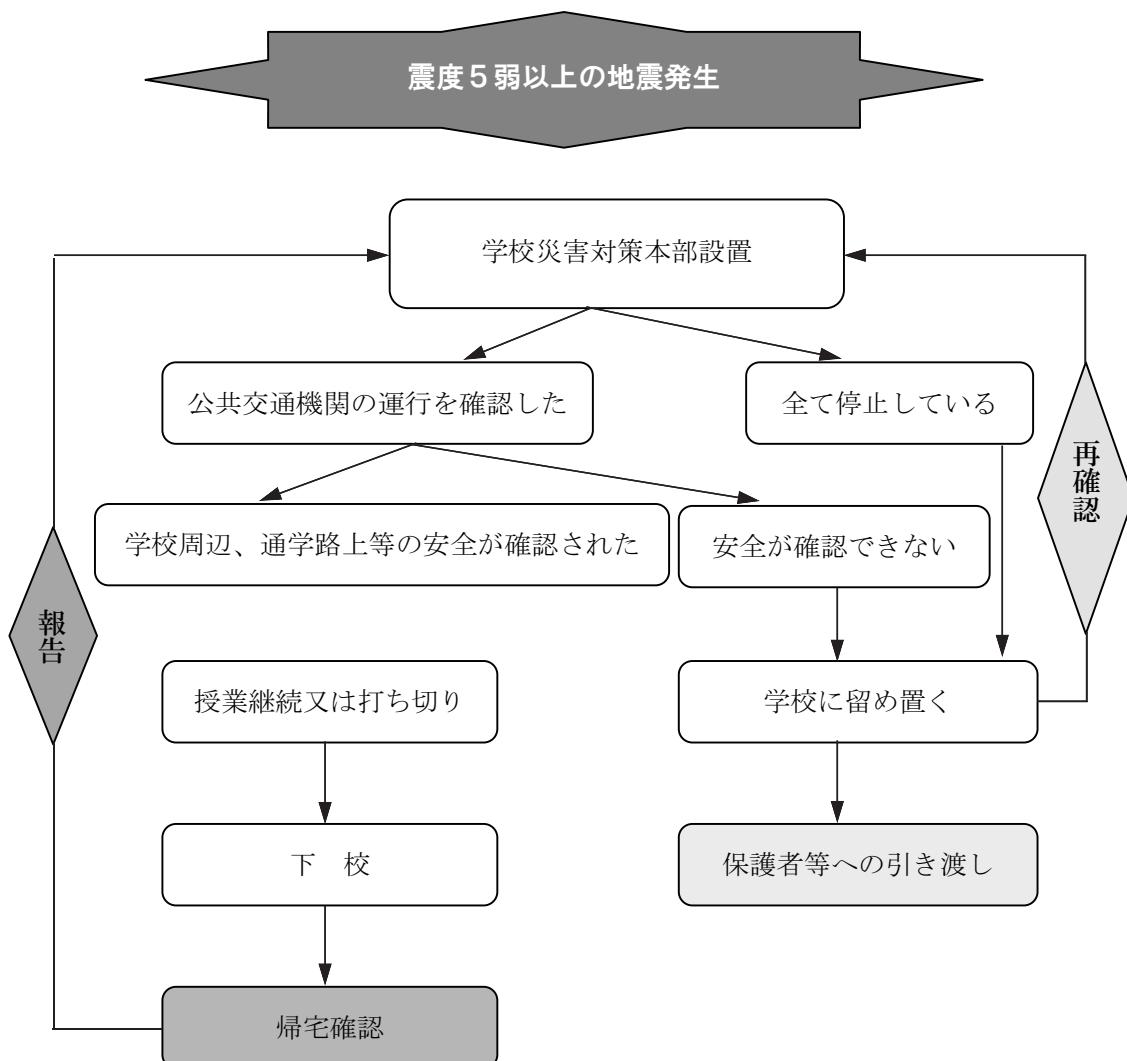
## 7 日程および訓練内容〔例〕

時刻	訓練内容	
	本 部	子ども・担任
13:55	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ タウンメールで保護者に迎えを依頼</li> <li>○ スクールガードに避難訓練実施と各場所で待機・指導していただくように依頼</li> </ul> <p><b>緊急放送</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練、訓練。緊急地震速報が発令されました。大きな地震が予想されます。</li> <li>全校のみなさんは、机の下にもぐり、次の放送を待ちましょう。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動をやめて静かに放送を聴く。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・机の下にもぐり、机の脚をしっかりと頭部を守る。</li> <li>・放送の指示に従う。</li> <li>・担任は、火気の消火、出口の確保をする。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>強い揺れを感じる。</b></p>
13:57	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校災害対策本部設置             <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長・教頭は状況判断し、直ちに適切な処置を取る。</li> <li>・緊急放送：( )</li> <li>・消防署通報：( )</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 机にもぐったまま待機する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任（授業者）は、子どもが慌てて飛び出さないように指示し、揺れがおさまるまで待機させる。</li> </ul> </li> </ul>
14:00		<p><b>緊急放送</b></p> <p>全校のみなさんは、担任の先生の話をよく聴いて、落ち着いて運動場へ出ましょう。ガラスの破片や落ちてくるものがないか気をつけて避難しなさい。</p>
14:01		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 運動場（雨天時は体育館）へ避難する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・出入口は開けたまま出る。</li> <li>・帽子をかぶり、上靴のまま避難する。</li> <li>・「お・か・し・も」の徹底。</li> <li>・担任は電気を消し、出席簿を持って出る。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>避難開始</b></p>
14:05	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人数確認：教頭</li> <li>○ けが人の校舎からの搬出の応援要請：校長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 負傷者や特別な支援の必要な子どもに配慮する。</li> </ul> <p><b>集合整列</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 負傷者の報告→校長</li> <li>○ 負傷者の救助：( ) ( )</li> <li>○ 校舎の最終確認：( ) ( )</li> <li>○ 静かに整列する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級ごとに静かに座って待つ。</li> </ul> </li> <li>○ 人数確認             <ul style="list-style-type: none"> <li>・在籍数・出席数・欠席数確認：担任→学年主任→教頭へ報告</li> <li>・異常がある場合は即連絡→校長</li> </ul> </li> </ul>

		避難完了
14:15	校長講話	
14:20		引き渡し訓練へ
14:30	校内放送	<p>全校のみなさんは帰る準備をして運動場に登校班ごとに並びなさい。</p> <p>○ 教室へ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上靴の土をぬぐって校舎へ。</li> <li>・教室に戻り帰る準備をして、あいさつをしたあと、再び運動場へ。</li> </ul>
14:40	<p>○ 保護者に整列指示。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各登校班の最後尾に並んでもらう。</li> </ul>	<p>○運動場に登校班ごとに整列</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動場で登校班ごとに並ぶ。</li> <li>・地区名の書いたプラカードの準備。</li> <li>・登校班長は、しっかり整列するように指示する（雨天時は体育館）。</li> <li>・学童保育所へ行く子どもは、一旦登校班の場所に並んだ後、地区担当の先生に伝え、学童保育の集合場所に移動する。</li> <li>・人数確認：各地区担当者 →教頭へ報告</li> </ul>
15:00		整列完了
	<p>保護者の皆様、本日はご参加いただきありがとうございます。大地震等の天災が発生し帰宅が危ぶまれる場合や、不審者の出現により子どもだけでの下校が危険な場合など、不測の事態を想定し、被害を最小限にとどめることを目的として引き渡し訓練を実施いたしました。</p> <p>これから、地区担当者が一人ひとりチェックさせていただきます。チェックが済んだ保護者の方からお子様とお帰りください。 下校される際には、お子様と危険箇所等についてお話ししながら下校してください。可能な方は、お子様と一緒に歩いて下校してください。 どうぞよろしくお願ひします。本日はありがとうございました。 それでは、引き渡しを開始します。</p>	保護者確認：担任
		<p>○ 保護者確認（地区ごと）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区担当者がチェックし、名簿に印をつける。</li> <li>・確認を終えた保護者と子どもは、先に下校する。</li> <li>・協力してもらえる保護者には、子どもと一緒に徒歩で通学路を帰ってもらう。</li> </ul>
	集団下校開始	<p>○ 登校班担当教師は、その他の子どもを引率し、下校させる。</p> <p>○ 集団下校時に、危険箇所を想定し指導する（ブロック塀、信号機、落下物等）。</p>

## 【参考資料5】高等学校の下校および保護者への引き渡しフロー〔例〕

公共交通機関（電車・バス）を利用して通学している生徒については、下記のとおり対応する。



※徒歩または自転車で登校している生徒は、道路状況の安全を十分に確認・把握した上で判断する。

### Q & A

Q	A
◆ 一次避難場所をグラウンドとしているが、雨等、悪天候の場合どのように対応すれば良いですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館、集会室等、ある程度人数が収容でき安全が確保できる場所への避難が考えられます。</li> <li>・学校の規模（施設や生徒数）により、様々な状況に対応できるよう複数の案を考えておく必要があります。</li> </ul>
◆ 引き渡しの基準を定めた場合、基準ではない震度で引き取りに来た保護者への対応はどうすれば良いですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心配な保護者は引き取りに来ることが十分に予想されるため、あらかじめ教職員全体で共通理解しておくことが必要でしょう。</li> </ul>

### 【参考資料6】避難確認カード【例】

登下校中に災害が発生した場合には、緊急に通学路等の巡回が必要になってくる。下記のような児童生徒・保護者・学校が共通した「避難確認カード」を作成しておく。  
学校では、提出された学校用カードを学級別と地区別の2つのファイルに綴じておく。  
なお、このカードは、個人情報であるので、取扱いには十分注意する必要がある。

児童生徒用	地区名		
<b>避難確認カード</b>	年 組 番 氏名		
避 難 場 所			
登 校 前	→		
登下校中	→	①	②
連 絡 先	→	(緊急連絡先氏名) (緊急連絡先携帯) — —	
保 護 者 用		地区名	
<b>避難確認カード</b>	年 組 番 氏名	避 難 場 所	
登 校 前	→		
登下校中	→	①	②
連 絡 先	→	(緊急連絡先氏名) (緊急連絡先携帯) — —	
学 校 用		◎学級用 ◎地区用 地区名	
<b>避難確認カード</b>	年 組 番 氏名 自宅住所	避 難 場 所	
登 校 前	→		
登下校中	→	①	②
連 絡 先	→	(緊急連絡先氏名) (緊急連絡先携帯) — —	

## (6) 家庭・地域・関係機関・市町防災担当課等との連携

災害発生時にも冷静に対処・行動をするためには、日頃から家庭・地域・関係機関・市町防災担当課等との綿密な情報共有・連携を図ることが肝要である。

なお、その際は管理職だけではなく、いち早く学校に駆けつける連絡調整者を含め対応していくことが望ましい。

### ① 家庭・地域との連携

ア 管理職だけではなく、防災安全担当者や各課主任などが、地域の自主防災組織等の防災訓練に参加し、地域の防災関係者と交流を深め、災害発生時の具体的な対応について確認する。

イ 平常時の自主防災組織等運営委員会への参加を積極的に行い、日頃から避難所運営支援等についての意見交換を実施する。校長・副校長等が参加し、学校の立場を理解してもらう必要がある。

ウ 日頃から、防災訓練の方針や計画について、保護者やPTA、町内会、自治会などに連絡し、理解を求めていく必要がある。

エ 児童等の引き渡し訓練などを通して、災害発生時の学校の対応や保護者の連絡先・連絡方法などを話し合うなど、保護者との連携を密にしておく必要がある。

### ② 消防署・警察署・関係機関等との連携

ア 消防署、警察署等に対して、災害が発生した場合に連絡すべき事項や、協力を要請する事項などについて、あらかじめ定めておく必要がある。

イ 防災訓練の際、実地の指導や講評等について、専門家である関係機関等の協力を得る。

### ③ 市町防災担当課等との連携

ア 市町防災担当課等と連絡を密にし、市町地域防災計画等について、教職員が十分に理解するとともに、市町等が実施する総合防災訓練への積極的な参加・協力など、市町防災担当課等と連携した取組を進めることが重要である。

イ 自主防災組織等の運営支援等については、市町校長会などの場を活用して、定期的に市町防災担当課等と学校が情報を交換する場を設定することが重要である。

**【作成例】**

**【様式1】**

**防災に関する「避難訓練」年間実施計画**

作成例				
実施日	平成 年 月 日( )			
実施時間	○○:○○ ~ ○○:○○			
想 定	地震	授業中	予 告	(有) · 無
ねらい	地震の恐ろしさを知り、教室内では机の下にもぐり、指示に従い運動場に避難する。放送をしっかりと聞き、避難に際しては「おかしも」の約束を守り、落ち着いて行動する。			
指導の留意点	避難訓練の意義をしっかりと指導するとともに、避難経路の確認をさせる。			

想定A				
想 定	地震	休憩中	予 告	(有) · 無
ねらい	近くの「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所を見つけ、体を低くして頭部を保護し、近くにいる教師の指示に従い避難場所へ移動する。			
指導の留意点	休憩時間中には、近くにいる教職員の指示に従い避難するよう働きかける。			

想定B				
想 定	火災	家庭室より出火	予 告	(有) · 無
ねらい	安全を確認し、煙が充満している中を想定して、ハンカチを口にあて、落ち着いて避難する。			
指導の留意点	放送をしっかりと聞き、避難経路を確認し、「おかしも」の約束を守り、落ち着いて行動するよう働きかける。			

想定C				
想 定	地震	緊急地震速報を取り入れた訓練	予 告	(有) · 無
ねらい	緊急地震速報のチャイム音を耳にした時に、状況を判断し、行動する。			
指導の留意点	緊急地震速報のチャイム音を聞いたら、近くの「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に移動し、近くにいる教職員の指示に従い避難するよう働きかける。			

想定D				
想 定	地震から火災	校舎内から子どもが逃げ遅れた場合	予 告	(有) · 無
ねらい	各学級で逃げ遅れた子どもがいないか顔を確認しながら点呼し、誰が逃げ遅れているかを早急に把握する。			
指導の留意点	逃げ遅れている友だちがいた場合には、早急に教師に知らせるよう働きかける。			

想定E				
想 定	地震・停電	校内放送が使用できない状況	予 告	(有) · 無
ねらい	ハンドマイクによるアナウンスをしっかりと聞き、的確に判断し、避難場所へ移動する。			
指導の留意点	安全確認の情報がない場合にも、的確に状況を判断し、教師の指示に従い避難するよう指導する。			

想定F				
想 定	地震	保護者への引き渡し訓練	予 告	(有) · 無
ねらい	円滑な引き渡しが行えるように子どもをすばやく整列させ、保護者へ子どもを引き渡す。			
指導の留意点	引き渡し訓練に参加する保護者を確認し、円滑な引き渡しが行えるように支援する。			